

CKDの高尿酸血症に対する尿酸 排泄促進剤(ベンズブロン) 投与に関する検討



両国東口クリニック

大山恵子 大山博司



つばさクリニック

諸見里 仁

背景

高尿酸血症・痛風の治療ガイドラインでは、腎機能低下に対して、効果と安全性の両面から、尿酸生成抑制薬であるアロプリノールの投与が勧められている。しかし、最近血清クレアチニンが4mg/dl程度までの腎機能低下に対して、尿酸排泄促進剤であるベンズブロマロンの投与が有用であるとの報告が散見される。

方法

当院に高尿酸血症・痛風で来院した患者で eGFR60 mL/分/1.73m²未満、尿酸排泄促進剤であるベンスブロンのみで治療を行っていた者を抽出し、治療開始前 (start) と endpoint を決め尿酸値変化、eGFR変化を後ろ向きに検討した。

対象

高尿酸血症・痛風で来院した患者のうち、CKDstage3
($eGFR 48.1 \pm 9.7 \text{ mL/分/1.73m}^2$; 9.1 ~ 59.3)以上の腎機能

低下を認める35例。

年齢 57.8 ± 10.4 歳(36 ~ 79歳)、男/女:33/2、血清尿酸値
 $8.5 \pm 0.9 \text{ mg/dL}$ 値であった。

ハンスブロム投与期間 及び CKDstage分類

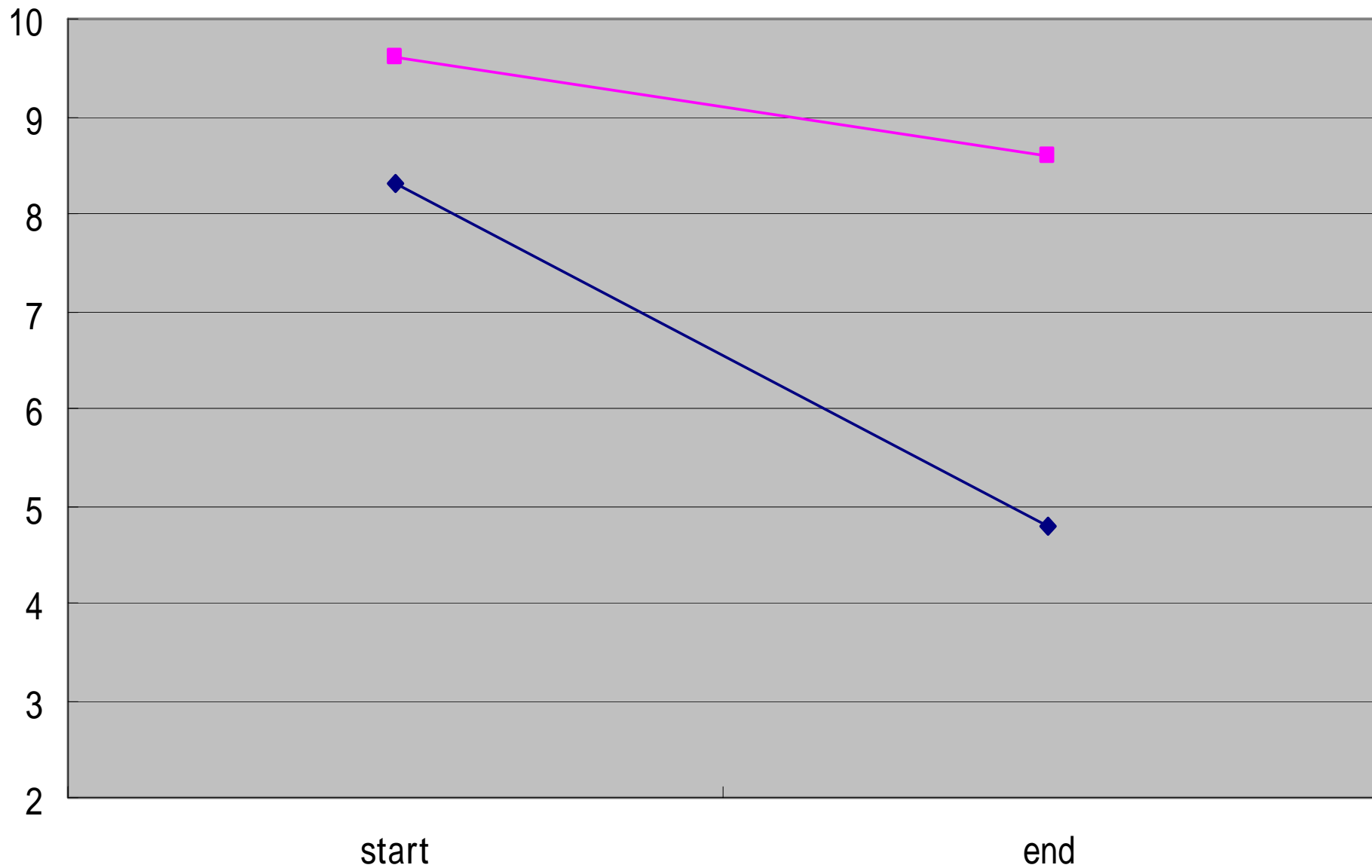
1年未満:2例	stage3	2例
1年 ~ 2年未満:10例	stage3	9例
	stage5	1例
2年 ~ 3年未満:10例	stage3	10例
3年 ~ 4年未満:7例	stage3	7例
4年以上:6例	stage3	6例

目的

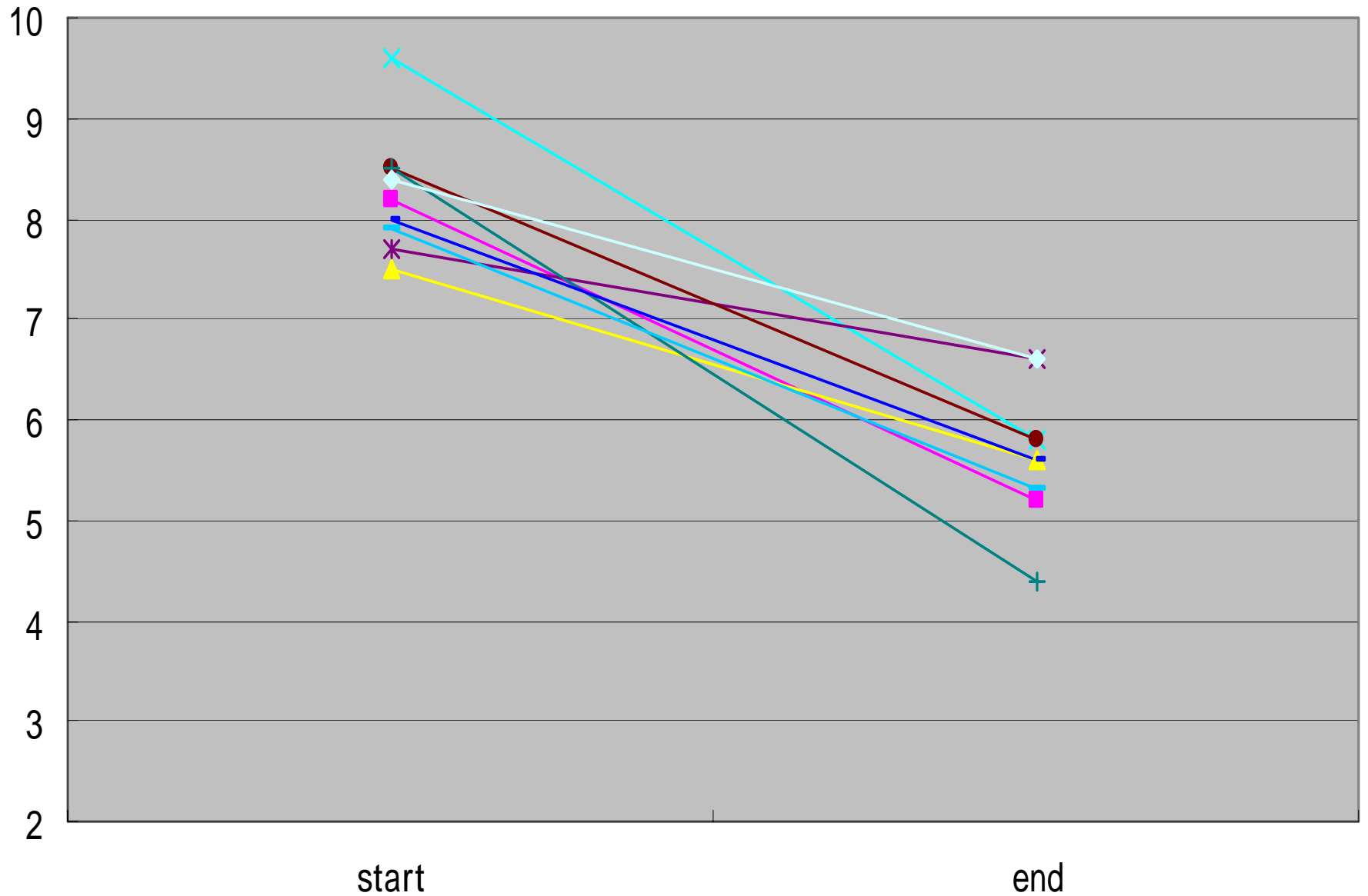
Stage3以上のCKD患者にベンズブロマロン投与が有効であるか。

Stage3以上のCKD患者にベンズブロマロン投与が安全であるか。

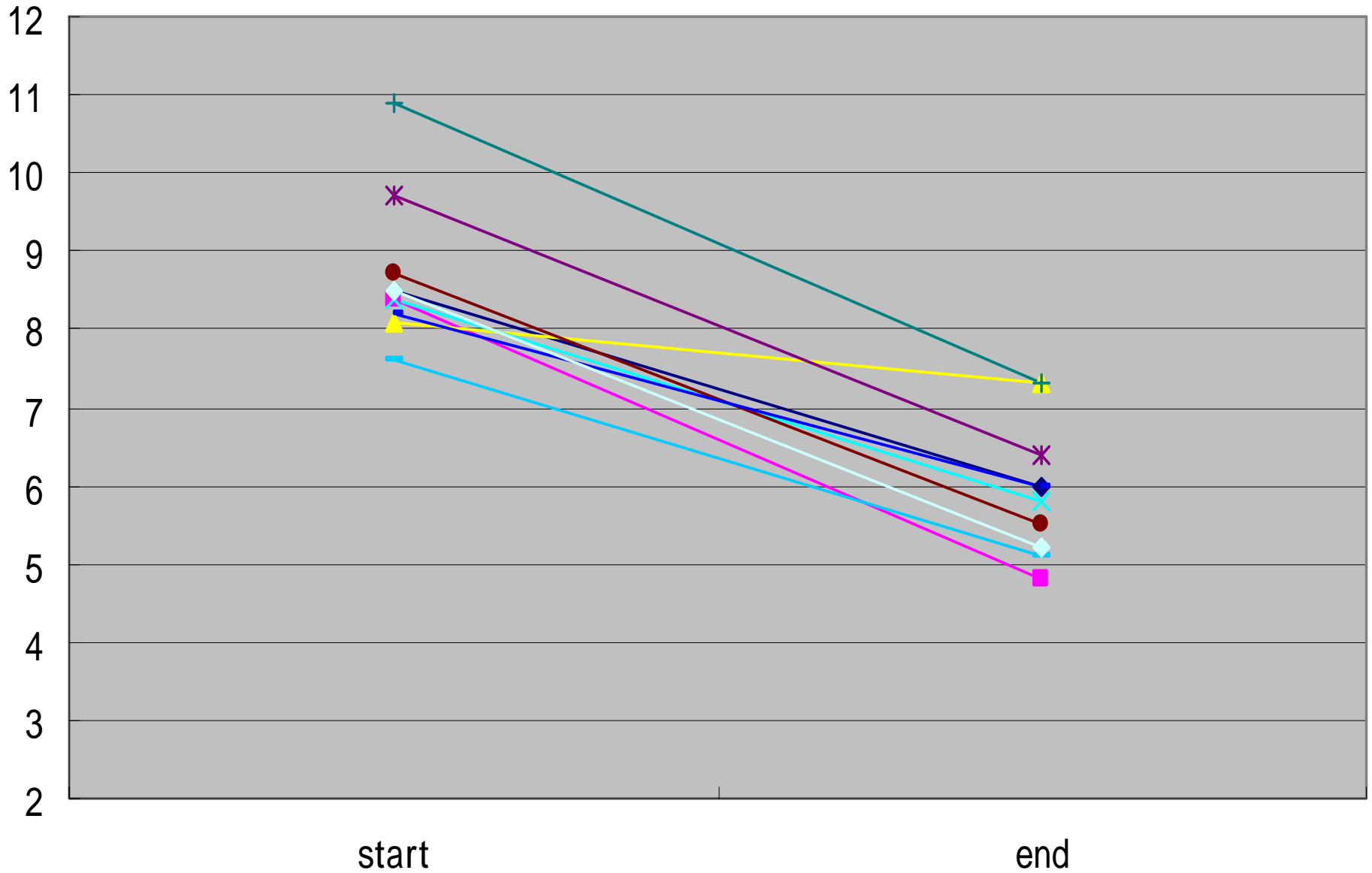
服用期間1年未満の尿酸値変化



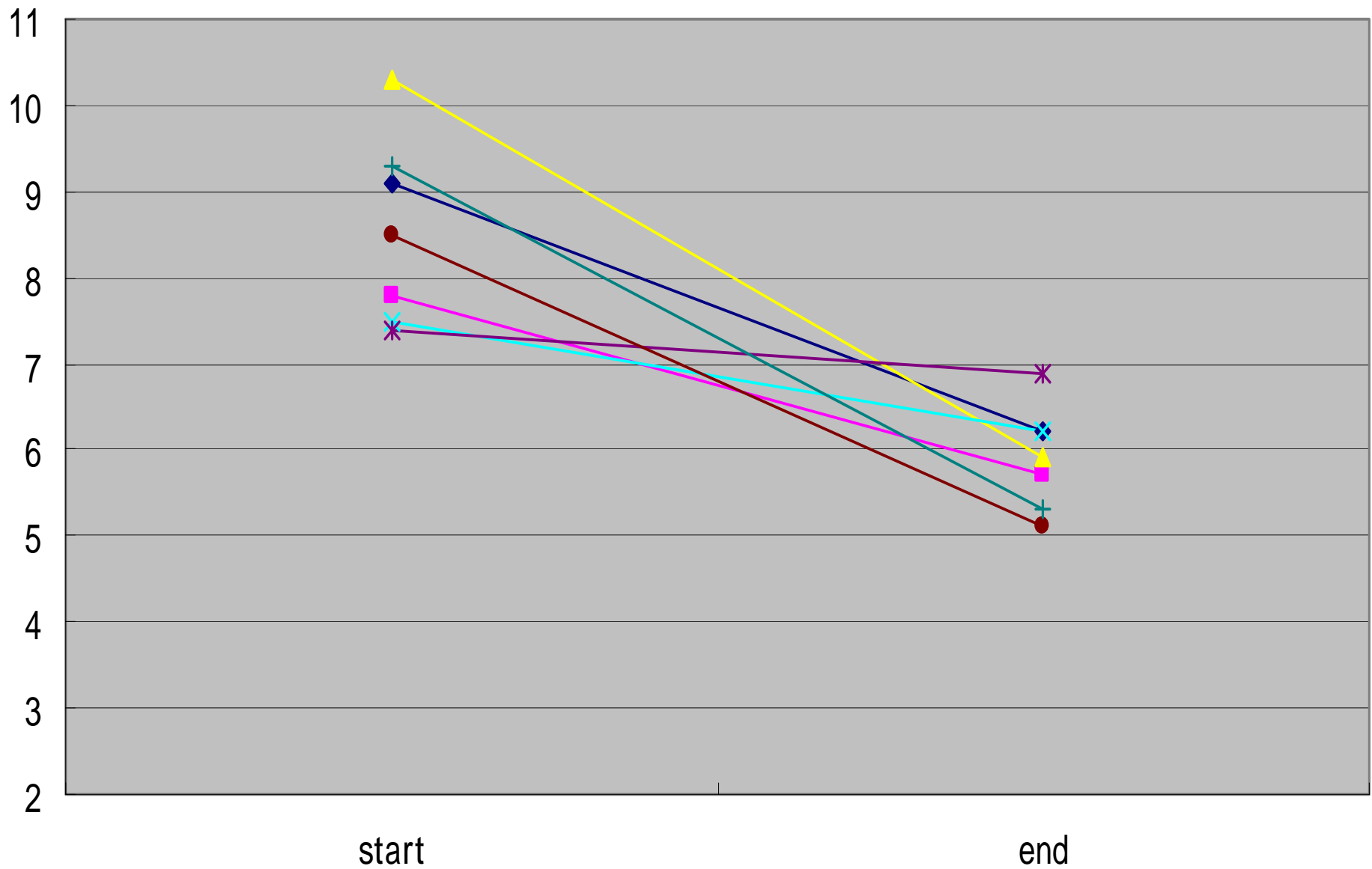
服用期間1年～2年未満の尿酸値変化



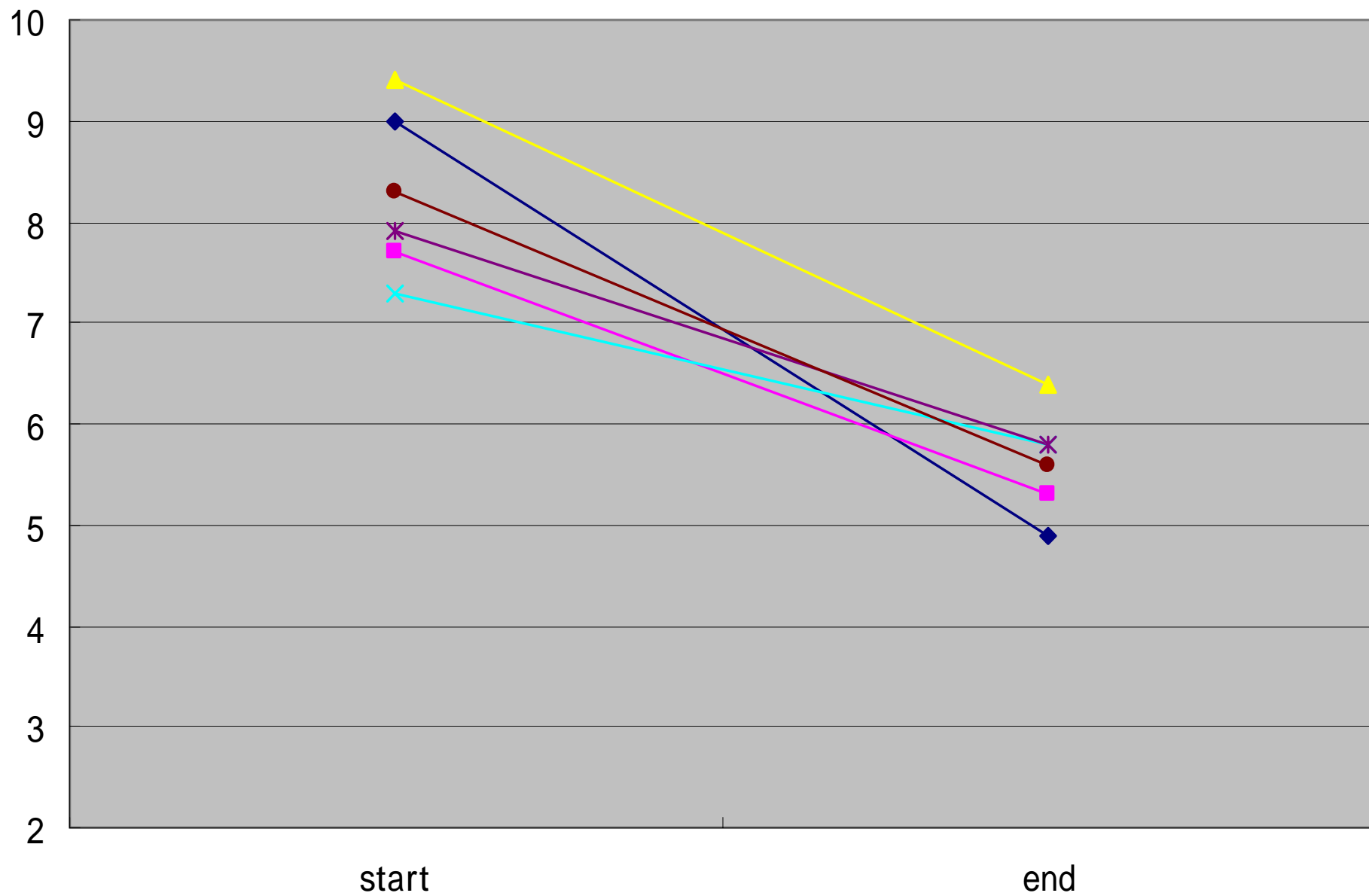
服用期間2年～3年未満の尿酸値変化



投与期間3年～4年未満の尿酸値変化

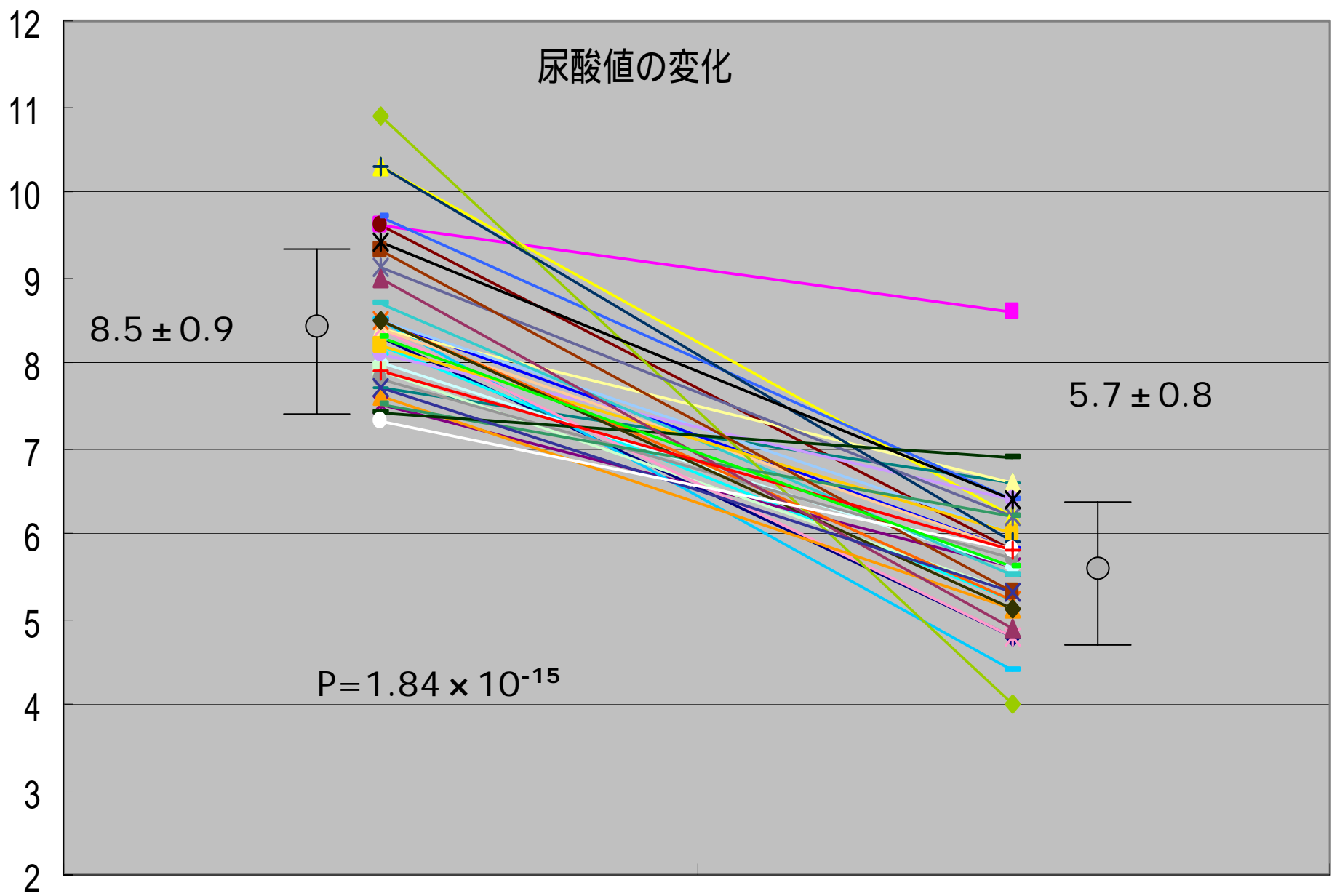


投与期間4年以上の尿酸値変化



尿酸値の変化

mg/dl



8.5 ± 0.9

5.7 ± 0.8

$P = 1.84 \times 10^{-15}$

start

end

結果1

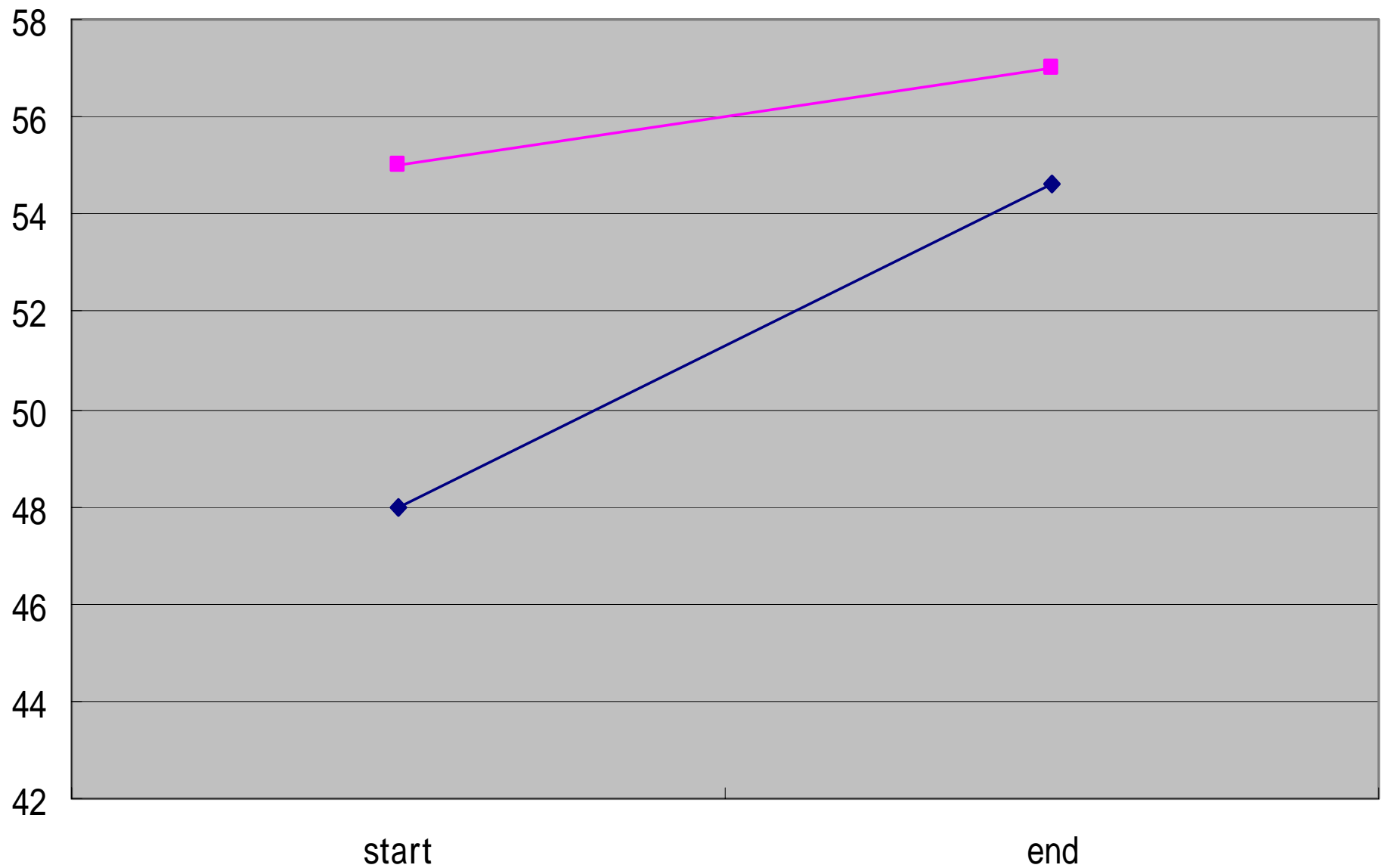
慢性腎臓病を併発している高尿酸血症
に対しベンズブロロンは有効であった。

(投与量

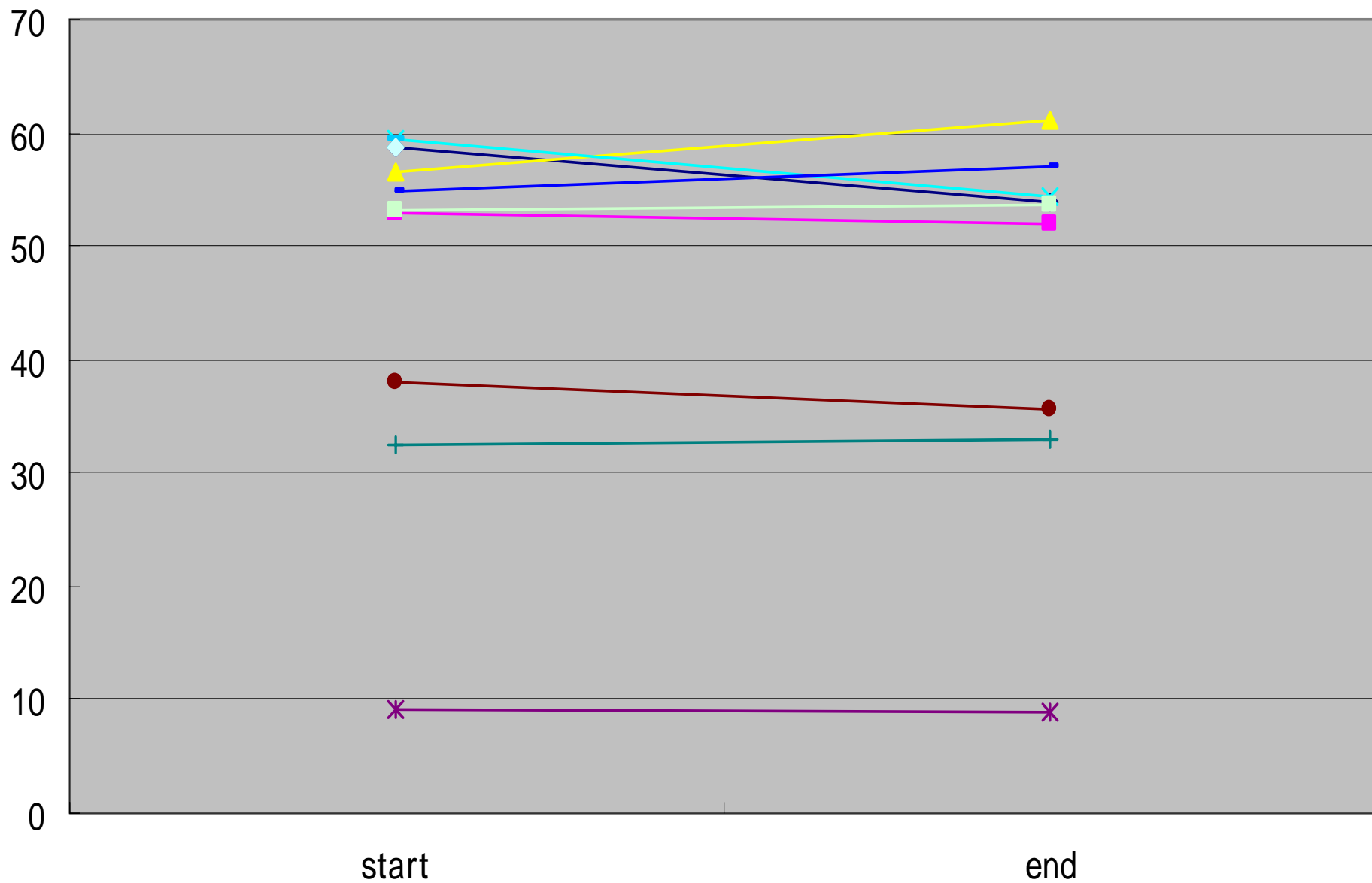
start18.9mg ± 8.2end41.1mg ± 20)

投与期間中、肝機能を含めた臨床検査値
異常は認めなかった。下痢などの消化器
症状、他の副作用も認めなかった。

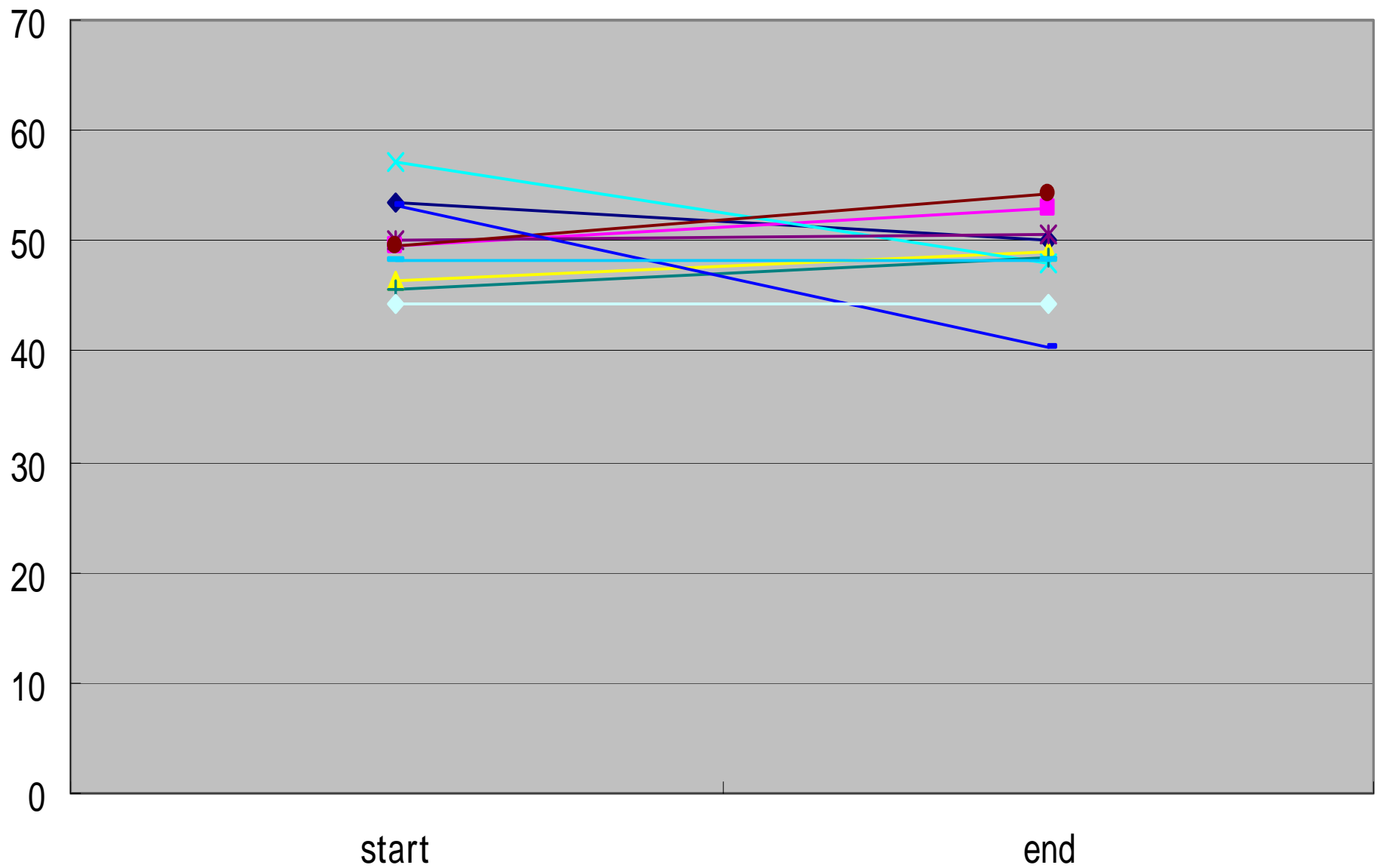
服用期間1年未満のeGFR変化



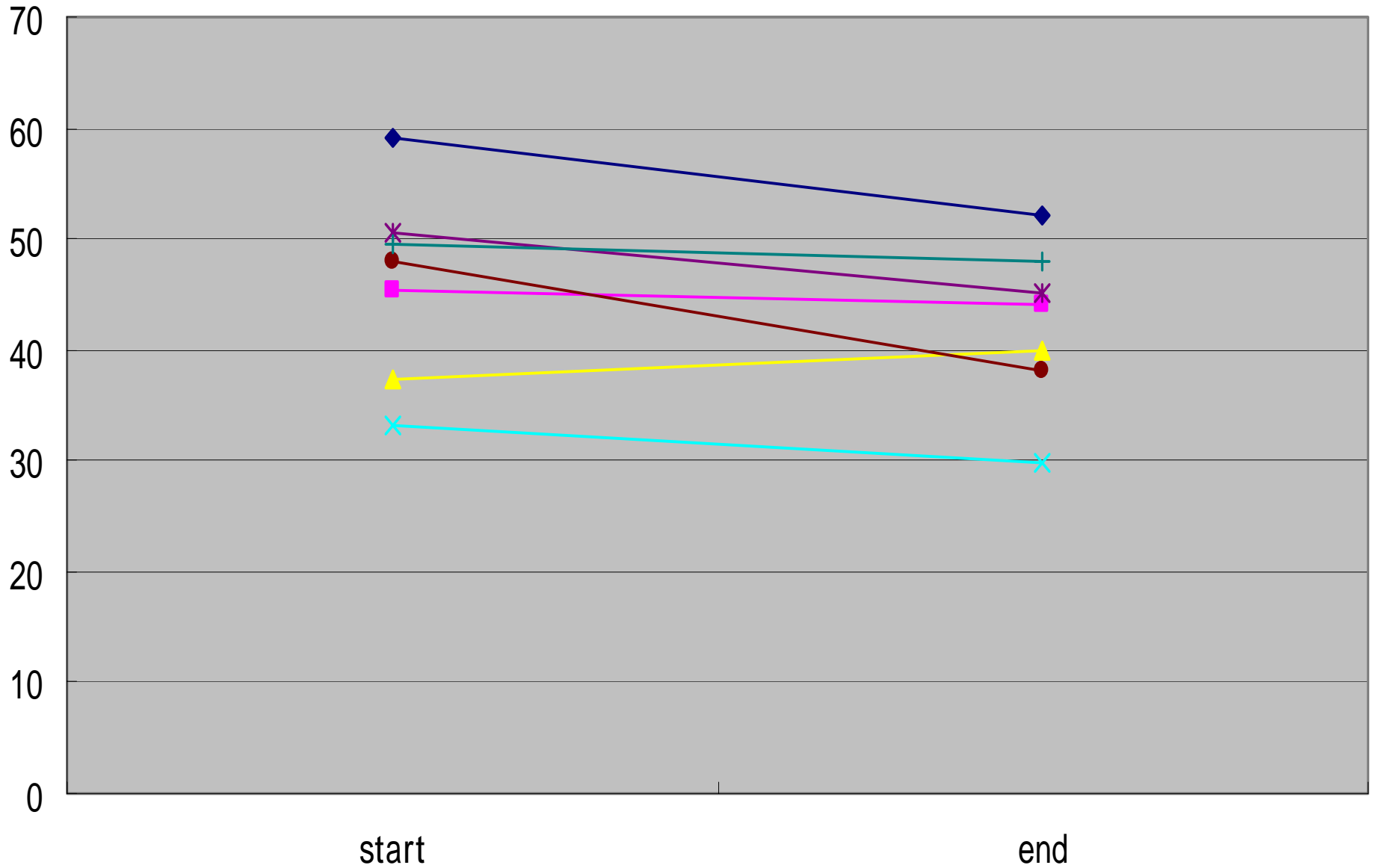
服用期間1年～2年未満のeGFR変化



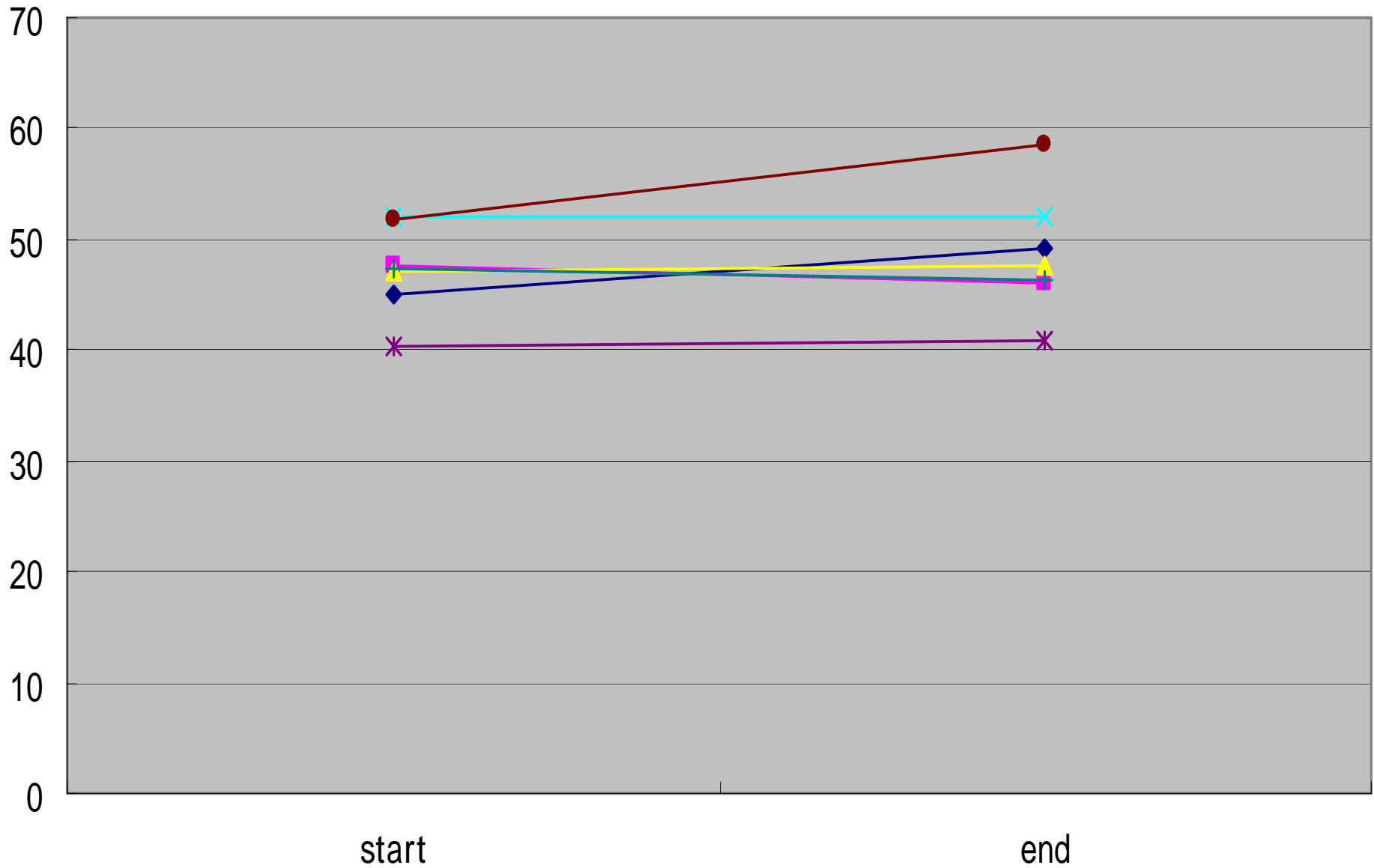
服用期間2年～3年未満のeGFR変化



服用期間3年～4年未満のeGFR変化



投与期間4年以上のeGFR変化



ml/min/1.73

70m²

eGFRの変化

60

50

40

30

20

10

0

48.1 ± 9.7

47.2 ± 10.0

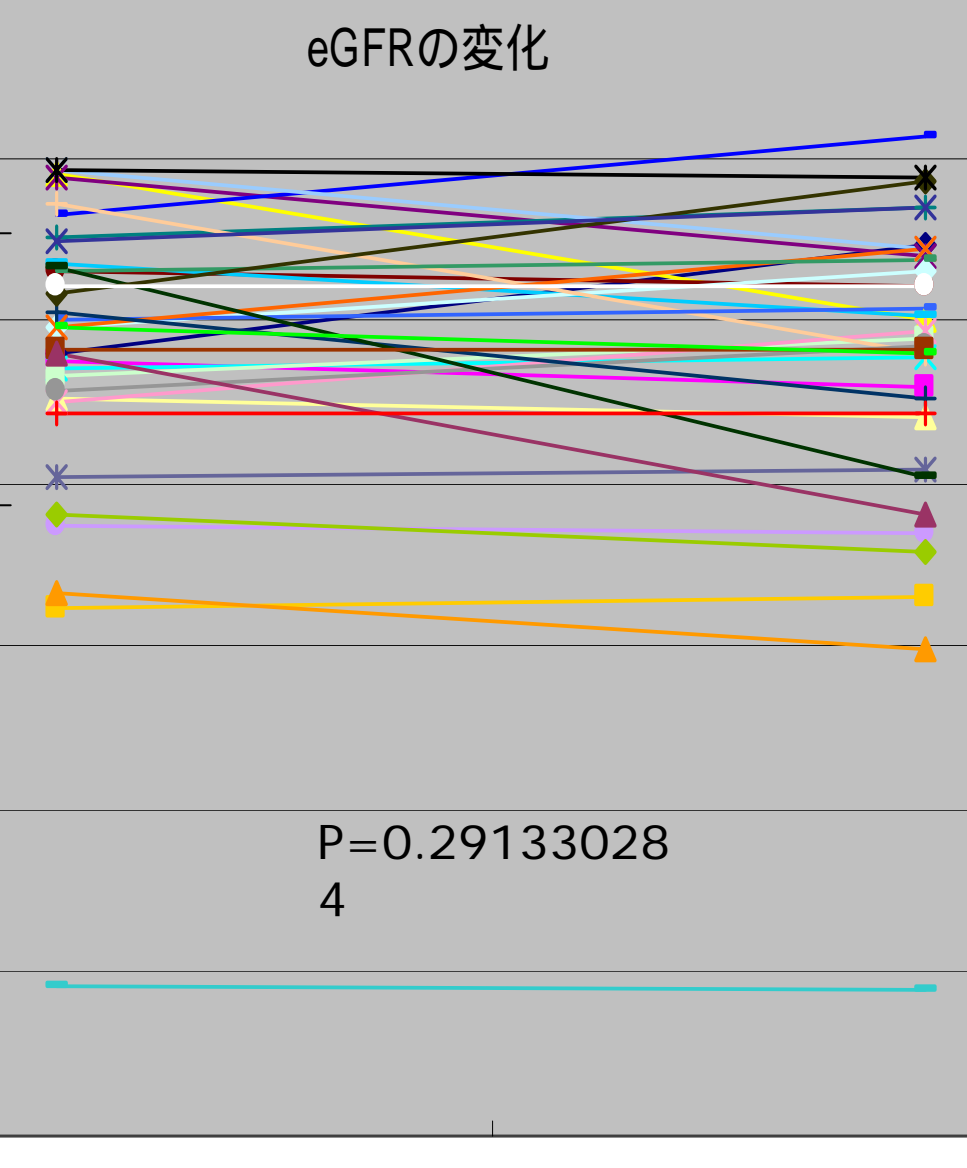
0

P=0.29133028

4

start

end



結果2

eGFRの変化値は、 $P=0.29$ と有意な変化を認めなかった。

今回、尿酸排泄低下型であるCKDに於いて排泄促進薬が腎機能悪化を来たすことなく安全であることを確認した。

考察

疾患に対する治療は、現在、原疾患の治療以外にさまざまな進行因子を一つひとつ丁寧に治療する集学的治療がされるようになった。CKDを伴う高尿酸血症の治療は、実地医療ではアロプリールが使用されているか、放置されている状態である。今回、尿酸排泄低下型であるCKDに於いて排泄促進薬が有効、かつ安全であることを確認したので、今後、第1選択となる可能性が考えられる。

ご静聴ありがとうございました。

